

Special Essay

A rolling stone

外科学 藤田 博正

A rolling stone gathers no moss. 転石苔を生ぜず。受験勉強で覚える有名な諺である。これを研究社の新英和中辞典で調べると、「転がる石には苔が生えない。商売変えは損あって益がない。」と訳されている。そして、rolling stone には「転石；風来坊、住所（職業、仕事）を次々に変える人」と説明がある。しかし、この訳は私にとって多少違和感がある。かつて私が学生時代に教わった意味はこれとは逆にポジティブな印象があったからだ。

平成16年11月20日の天声人語に次のように書かれてあった。「転石苔を生ぜず」という諺がある。「転がっている石 rolling stone には苔が生えない」という英語から来ており、二通りの意味を持つようになったと辞典にある。「転居や転職を重ねていると財産も地位も身につかない」と「常に活動しているものはいつまでも古くならない」私の記憶にあったのは二番目の意味だったのだ。しかし、なぜ二通りの意味を持つようになったのであろうか。

植田満文監修の故事ことわざ辞典（成美堂出版）には、「転がる石に苔つかず」英語の諺 A rolling stone gathers no moss. の訳。いつも転がっている石には苔がつかないという意味。苔をいいものとするか悪いものとするかで解釈が違ってくる。本来は、転職や転居を繰り返して一つのものごとに集中できない人間は成功しない、という意味で使われてきたが、最近では、常に生き生きと活動する人間はいつまでも古くならない、という意味で使われることが多い。英国では苔をよいものとし、米国では悪いものとする解釈が一般的。国民性の違いがはっきりとしておもしろい。と記されている。すなわち、研究社の英和中辞典は英語訳、私を教えた先生は米語訳を採用していたのである。英国では一つのことに熟達することが尊重されるが、米国では能力を生かして転職することがよいとされる。日本でも、かつては英国流、現在は米国流が流行っている。

しかし、英国流、米国流と簡単に割り切っていいだろうか？時代や世代によっても変わるのではないか。私のような団塊の世代の人間にとって青春時代の音楽といえば、ビートルズとともにローリング・ストーンズがあげられる。両方とも英国のグループである。どちらかという上品なビートルズに対し、ワイルドで反抗的なローリング・ストーンズという印象があった。この若者たちは、自分たちを「風来坊」と自称しつつ、「いつまでの生き生きと活動したい」と考えていたのだろうか。米国のフォーク・ロックの旗手ボブ・デイルンもまた「Like a rolling stone」を歌った。彼の意味する a rolling stone は典型的な英国流である。

How does it feel
How does it feel
To be on your own
With no direction home
Like a complete unknown
Like a rolling stone?

ところで、私はといえば転勤族である。「転居や転職を重ねていると財産も地位も身につかない」

